InstallShield 2023 Express Edition リリース ノート

オリジナル リリース 2023 年 6 月、R2 を含むアップデート リリース (2023 年 12 月)

はじめに 2

R2 の新しい機能 2

R1 の新しい機能 3

強化機能 4

重要な情報 5

- 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要 6
- InstallShield Express Edition の評価 6
- InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する 6
- InstallShield の複数エディションをインストールする 7
- InstallShield の複数バージョンをインストールする 7
- [アップデート通知] ビューの削除 7
- [リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除 7

プロジェクトのアップグレードに関するアラート 8

- InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報 8
- ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更 8
- 文字列のローカライズに関する考慮 9

バグ修正 9

- InstallShield 2023 R2 Express Edition 9
- InstallShield 2023 R1 Express Edition 10

システム要件 10

- InstallShield Express Edition を実行するシステム 11
- ターゲット システムの要件 12

既知の問題 12

法的情報 13

はじめに

InstallShield は、ハイクオリティな Windows Installer ベースのインストールをオーサリングするための業界標準ツールです。

InstallShield 2023 Express Edition では、最新テクノロジを手軽に使用できるようにする新しい機能、強化機能、およびバグ修正も提供されています。

R2 の新しい機能

InstallShield 2023 R2 Express Edition には、以下のような新しい機能が搭載されています:

- デジタル署名のカスタム署名ソリューションを構成できる機能
- EV デジタル署名用トークン パスワードの保存機能

デジタル署名のカスタム署名ソリューションを構成できる機能

InstallShield 2023 R2 Express Edition では、ビルドで生成されたファイルにデジタル署名を行うカスタム署名ソリューションを選択および構成できる新しい "署名の種類" 設定が導入されました。

これらの設定は、InstallShield Express Edition の標準署名ソリューションの代わりにカスタム署名ソリューションをご利用希望のお客様向けに提供されています。**[カスタム]** 署名タイプを選択すると、カスタム署名ユーティリティ パスおよび引数を構成できる追加フィールドが有効化されます。カスタム署名ソリューションを構成するには、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーに表示されているリリースの **[署名]** タブで次の新しい設定を使用してください::

- **署名の種類** – この設定を使って、ビルドが生成したファイルにデジタル署名行う方法を指定します。この設定では、次のオプションを使用できます:
  - **標準** – InstallShield Express Edition デフォルト署名ツールを使って、ビルドが生成したファイルに署名を行います。
  - **カスタム** – 独自のカスタマイズ署名ツールを使って、ビルドが生成したファイルに署名を行います。このオプションを設定すると、**"パス"** および **"引数"** 設定が有効になります。
- **パス** – ビルドが生成したファイルにデジタル署名行うために使用する署名ツールの場所を指定します。署名ツールの場所を指定するには、この設定で省略記号ボタン (...) をクリックします。
- **引数** – 署名ツール構成のコマンドライン引数を指定します。たとえば次のコマンドライン引数を使って、Microsoft ビルトイン署名ツールがバイナリに署名を行うカスタム オプションとして構成します。

  sign /fd SHA256 /f "<ProgramFilesFolder>¥testCA.pfx" /t http://timestamp.digicert.com /p MyPassword [filename]

  メモ: *カスタム署名ツールへのパスは、<ProgramFilesFolder>¥Windows Kits¥10¥bin¥<WinSDKVer>¥x86¥signtool.exe を使用します。*

[filename] 変数は、署名を行う完全なファイル パスのプレースホルダーです。ビルド時に、署名を行うバイナリ ファイルの完全修飾パスに解決します。デフォルトで、引数の終わりにファイル パスが追加され、カスタム署名ツールに渡されます。ハードコード化されたパスを使用する代わりに、プロジェクトで定義されている任意のパス変数および環境変数を使用することができます。

メモ: *デフォルトで、**"署名の種類"** 設定は **[標準]** になっています。*

EV デジタル署名用トークン パスワードの保存機能

InstallShield 2023 R2 Express Edition では、EV トークンのパスワードを暗号化してプロジェクト ファイルに保存するオプションが提供されています。以前の InstallShield Express Edition バージョンでは、**[証明書ストアを使用する]** オプションを使った EV 証明書がサポートされていました。ただしこのオプションを使用すると、ファイルが EV 証明書で署名されるたびにトークン パスワードが要求されます。

また、EV ベンダーに付属する [シングルログオンを有効にする] というオプションもあります。このオプションでは、1 回のトークン パスワード要求でセッションごとのユーザー介入を制限できます。InstallShield Express Edition の [署名] タブでトークン パスワードを構成すると、パスワードの有効期限が切れるまで機能し続けます。トークンのパスワードは、InstallShield Express Edition IDE を使用して変更できます。

詳細については、InstallScript Express Edition ドキュメントの「[署名] タブ」セクションを参照して下さい。

R1 の新しい機能

InstallShield 2023 R1 Express Edition には、以下のような新しい機能が搭載されています:

- 新しいセットアップ前提条件
- セキュリティ機能を含むセットアップ ランチャーをビルドできる機能
- 2 GB以上のインストーラーを処理できる機能

新しいセットアップ前提条件

InstallShield 2023 R1 Express Edition では、**[アプリケーション データ]** ビューの **[再配布可能ファイル]** エクスプローラーに、次のセットアップ前提条件が追加されました:

- Microsoft OLEDB Driver for SQL Server 19.3.0 (x64)
- Microsoft OLEDB Driver for SQL Server 19.3.0 (x86)
- Microsoft .NET 6.0 SDK 6.0.408 (x64)
- Microsoft .NET 6.0 SDK 6.0.408 (x86)
- Microsoft .NET 7.0 SDK 7.0.302 (x64)
- Microsoft .NET 7.0 SDK 7.0.302 (x86)

メモ: *この問題は ISDEV-43005 として記録されています。*

セキュリティ機能を含むセットアップ ランチャーをビルドできる機能

すべての InstallShield 2023 R1 Express Edition セットアップ ランチャーは、今回より control-flow-guard、enforced-code-integrity、および aslr などの最新セキュリティ機能と共にビルドされます。

メモ: *この問題は ISDEV-42510 として記録されています。*

2 GB以上のインストーラーを処理できる機能

InstallShield 2023 R1 Express Edition では、すべての setup.exe セットアップ ランチャーで **LargeAddressAware** フラグが有効化されるため、実行時に setup.exe セットアップ ランチャーが 2 ギガバイトを超えるアドレスを処理することができます。

メモ: *この問題は ISDEV-43244 として記録されています。*

強化機能

InstallShield 2023 R2Express Edition の強化機能:

- SQL Server 2022 の新しい前提条件
- 64 ビット署名フレームワークを有効化する新しい設定
- Setup.exe の新しいパラメーターを使って一時抽出ディレクトリをカスタマイズする

SQL Server 2022 の新しい前提条件

プロジェクト: *この情報は、次のプロジェクトの種類に適用します :*

- 基本の MSI
- InstallScript
- InstallScript MSI

InstallShield 2023 R2 Express Edition では、Microsoft SQL Server 2022 Express (x64) for SQL Server 2022 という前提条件が追加されました。この前提条件は、**[アプリケーション データ]** ビューの **[再配布可能ファイル]** エクスプローラーに表示されます。

メモ: *この変更は ISDEV-43523 として記録されています。*

64 ビット署名フレームワークを有効化する新しい設定

InstallShield 2023 R2 Express Edition では、**[メディア]** ビューの **[リリース]** エクスプローラーで、**[署名]** タブに **"64 ビット署名を使用"** という名前の新しい設定が追加されています。この設定を使って、パッケージにデジタル署名を行う 64 ビット署名フレームワークの使用を有効化することができます。
選択可能なオプションは以下のとおりです:

- **はい** — 64 ビット署名フレームワークを有効にして、デジタル署名を行います。
- **いいえ** — 32 ビット署名フレームワークを有効にして、デジタル署名を行います。

デフォルトで、この設定は **[いいえ]** になっています。

メモ: *Amazon Cloud HSM など、クラウドベースの署名ソリューションを使用する場合は、この設定が必要です。*

メモ: *この変更は ISDEV-43436 として記録されています。*

Setup.exe の新しいパラメーターを使って一時抽出ディレクトリをカスタマイズする

InstallShield 2023 R2 Express Editionでは、Setup.exe 起動ツールに /tempextractpath という新しいコマンドライン パラメーターが提供されています。

デフォルトで、InstallShield Express Edition セットアップは一時ファイルを %TEMP% ディレクトリに抽出し、ファイルを読み込んでインストールを完了した後、これらのファイルを削除します。これらの一時ファイルには、サポート ファイル、ビルボード、およびその他のカスタム アクションに必要な InstallShield エンジン ファイルが含まれています。%TEMP% 抽出ディレクトリからの実行可能ファイルの実行をブロックするウィルス対策アプリケーションなど、いくつかの環境制限シナリオがあります。

そのよう状況では、このパラメーターを使った抽出ディレクトリのカスタマイズが推奨されます。InstallShield では、カスタム場所からのこれらのファイルおよびバイナリの抽出と読み込みにおけるセキュリティが考慮されています。

メモ: *この変更は ISDEV-42332 として記録されています。*

重要な情報

InstallShield 2023 Express Edition リリースに関する次の重要な情報に注意してください:

- 同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要
- InstallShield Express Edition の評価
- InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する
- InstallShield の複数エディションをインストールする
- InstallShield の複数バージョンをインストールする
- [アップデート通知] ビューの削除
- [リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

同時接続ライセンス ユーザーは、FlexNet Licensing Server ソフトウェアのアップデートが必要

InstallShield Express Edition の同時接続ライセンスを使用する場合、InstallShield 2023 Express Edition を使用する前にライセンス サーバー上の FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンをアップデートする必要があります。

InstallShield Express Edition の以前のバージョンと共に出荷された FlexNet Licensing Server ソフトウェアのバージョンでは、InstallShield 2023 Express Edition のライセンスを管理することはできません。これらのライセンスが使用可能な場合でも、InstallShield 2023 Express Edition は古いバージョンのライセンス サーバーからライセンスをチェック アウトしません。

メモ: *FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 で、InstallShield 2022 Express Edition および InstallShield 2023 Express Edition のライセンスを管理することができます。InstallShield 2022 Express Edition から InstallShield 2023 Express Edition にアップグレードすると、既存の FlexNet Licensing Server ソフトウェア v11.19.0 を使用できるようになります。InstallShield 2021 Express Edition 以前のバージョンからアップグレードする場合、FlexNet Licensing Server ソフトウェアを v11.19.0 にアップグレードする必要があります。*

FlexNet Licensing Server ソフトウェアの最新版は、Revenera 製品 & ライセンス センターからダウンロードできます。

FlexNet Licensing Server ソフトウェアのインストール手順については、「同時接続ライセンス用のライセンス サーバーを設定する」を参照してください。

InstallShield Express Edition の評価

InstallShield Express Edition のライセンスを購入していなくても、InstallShield Express Edition をインストールしてアクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに一定の期間使用することができます。アクティベーションを行わず、またはライセンス サーバーに接続せずに使用すると、InstallShield Express Edition は一部の機能が制限された評価モードで起動します。詳細については、「InstallShield 評価版の機能制限について」を参照してください。評価版の制限は、InstallShield Express Edition がアクティベートされたとき、またはライセンス サーバーに接続して、そのライセンスがチェック アウトされたときに解除されます。

InstallShield および InstallShield のアドオンのインストール、および再配布可能ファイルを取得する

次のインストールは、[InstallShield のダウンロードおよびのライセンスの使用] に記述されている通り、Revenera 製品 & ライセンス センターからダウンロードが可能です:

- InstallShield
- 再配布可能ファイル (例えば、InstallShield 前提条件および InstallScript オブジェクト)
- Standalone Build、および InstallShield MSI ツールなどのアドオン (使用可能な場合)
- FlexNet Licensing Server ソフトウェア (同時接続ライセンスを購入した場合で、組織のライセンス サーバーを設定する必要がある場合)

- スキン カスタマイズ キット
- InstallScript オブジェクトのテンプレート
- InstallShield サービス パック（使用可能な場合）

InstallShield の複数エディションをインストールする

InstallShield 2023 (InstallShield Premier、InstallShield、または Express) は、同時に同じシステム上に 1 つのエディションのみをインストールできます。また、InstallShield 2023 DIM Editor を、InstallShield 2023 の任意のエディションが搭載されている同じマシン上にインストールすることはできません。

Microsoft Visual Studio の統合は 1 回につき InstallShield の 1 バージョンとのみ可能です。システムで最後にインストールまたは修復された InstallShield のバージョンが Visual Studio の統合に使用されます。

InstallShield の複数バージョンをインストールする

InstallShield 2023 Express Edition は、同じマシン上で別のバージョンの InstallShield と共存することができます。

InstallShield 2023 Express Edition Standalone Build は、同じマシン上で別のバージョンの Standalone Build と共存することができます。ほとんどの場合、InstallShield がインストールされているマシン上に Standalone Build がインストールされることはありません。この両方を同じマシン上にインストールして、オートメーション インターフェイスを使用する場合は、InstallShield ヘルプ ライブラリの *「Standalone Build と InstallShield を同一マシン上にインストールする」* トピックに記載されている、特殊な登録とアンインストールの考慮について参照してください。

[アップデート通知] ビューの削除

InstallShield 2021 R1 より、FlexNet Connect を統合して InstallShield を使ってアップデートを確認できる、アップデート通知機能のサポートが終了しました。この統合で使用されたマージモジュールは、今回より InstallShield にバンドルされていません。これまでにこの統合機能をご利用いただいたお客様には、以前の InstallShield インストールからマージ モジュールをコピーして、引き続き同じ機能をご利用いただくことができます。詳細については、ここをクリックしてください。

[リリース] ビューから [.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含める] オプションを削除

[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[.NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプションには .NET 1.1/2.0, Windows Installer 3.1 および J# 再配布可能ファイルのサポートが提供されていました。これらの古いテクノロジは、Microsoft による サポートが停止されました。これに伴い、InstallShield 2023 Express Edition のすべてのエディションで、[インストール デザイナー] の [メディア] ビューに表示される [リリース] エクスプローラーで、[NET/J#] タブおよび [MSI エンジンを含む] オプション（並びに関連する [.NET 1.1/2.0 コア言語] と [.NET 1.1/2.0 言語パック] ダイアログ ボックス）が削除されました。InstallShield 2023 ビルド タスクは、古いバージョンのプロジェクト ファイルでこれらのオプションが検出されても無視します。

プロジェクトのアップグレードに関するアラート

以下は、InstallShield 2016 および以前のバージョンで作成されたプロジェクトを InstallShield 2023 にアップグレードする際に発生する可能性のある問題についての情報です。また、新しい InstallShield 2023 プロジェクトと InstallShield 2016 および以前のバージョンから InstallShield 2023 にアップグレードされたプロジェクト間の潜在的な動作の違いについてもアラートします。

- InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報
- ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更
- 文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield の以前のバージョンで作成されたプロジェクトのアップグレードに関する一般情報

InstallShield で変換が行われる前に、例えば .777（.ism プロジェクトの場合）または .2016（.issuite プロジェクトの場合）というファイル拡張子が付加されたプロジェクトのバックアップ コピーが作成されます。以前のバージョンの InstallShield でこのプロジェクトを再度開く場合、元のプロジェクトのファイル名から .777 または .2016 を取り除いてください。InstallShield 2023 プロジェクトを以前のバージョンの InstallShield で開くことはできませんので、ご注意してください。

InstallShield 2016 以前、InstallShield 12 以前、InstallShield DevStudio、InstallShield Professional 7 以前、および InstallShield Developer 8 以前のバージョンの InstallShield で作成された既存プロジェクトを InstallShield 2023 にアップグレードできます。InstallShield MultiPlatform または InstallShield Universal で作成されたプロジェクトは InstallShield 2023 にアップグレードすることはできませんので、ご注意ください。

ターゲット システムとしてサポートされている Windows のバージョン リストに関する変更

スイート以外のすべてのプロジェクトの種類では、Windows XP SP3 および Windows Server 2003 SP2 が、InstallShield で作成されたインストールを実行するターゲット システムで必要な Windows の最小バージョンです。

文字列のローカライズに関する考慮

InstallShield 2016 から、ローカライズ済み文字列の検出と受け渡しに関する変更が行われました。たとえば、無効な文字のまわりに角括弧が付けられたローカライズ済み文字列のコンテンツは、ビルド時の警告またはエラーを引き起こします。そのため、インストールの作成作業中に次の新しい警告やエラーが発生する場合があります。

エラー/警告番号	Message	トラブルシューティング情報
-7355	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 の検証基準を満たしていません。	この警告は、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の列の検証基準を満たしていない時に発生します。この警告を解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。
-7354	文字列 %2 の値 %4 は、テーブル %1 列 %3 では使用できません。	このエラーは、ローカライズされた文字列が文字列エディター テーブル内の名前付き列に有効な値が含まれていないときに発生します。このエラーを解決するには、文字列エディター内のフラグされた値を更新してください。

バグ修正

このセクションには、InstallShield Express Edition の以下のバージョンで修正された顧客の問題が掲載されています:

- InstallShield 2023 R2 Express Edition
- InstallShield 2023 R1 Express Edition

InstallShield 2023 R2 Express Edition

InstallShield 2023 R2 Express Edition では、次の問題が解決されています:

問題番号	問題の概要
ISDEV-43575	InstallShield Express Edition で使用されている Zlib ライブラリ (v1.2.13) で脆弱性がレポートされました。Zlib は最新版 (v1.3.0.1). にアップグレードされました。
ISDEV-43500	setup.exe が別の名前で含まれているインストールのビルドで、悪意のある DLL が Disk1 フォルダーにコピーされたため、DLL ハイジャック セキュリティ脆弱性の可能性が検出されました。この問題は解決されました。
ISDEV-43354	[COM 情報の抽出] チェックボックスを含む QuickPatch プロジェクトをビルドすると、InstallShield Express Edition の IDE がクラッシュしました。この問題は解決されました。

問題番号	問題の概要
ISDEV-43265	インストーラーを Visual Studio でビルドしたときに、ローカルにコピーされたすべてのアイテムが File MSI テーブルに含まれましたが、インストーラーが MS Build を使ってビルドされたとき、ローカルにコピーされたアイテム 1 つが File テーブルに含まれませんでした。この問題は解決されました。 *メモ: ローカルにコピーされた MSBuild ターゲットは、Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild でのみ使用できます。そのため、この修正は Visual Studio 2019 以降に同梱されている MSBuild にのみ適用します。*

InstallShield 2023 R1 Express Edition

InstallShield 2023 R1 Express Edition では、次の問題が解決されています:

問題番号	問題の概要
ISDEV-42703	変更または置換された SUPPORTDIR の実行可能ファイルを強制的に修正すると、セキュリティ脆弱性を再生成する原因となりました。この問題は解決されました。
ISDEV-43166	Visual Studio 2022 を初回に管理者モードで起動しなかった場合、開始しませんでした。この問題は解決されました。
ISDEV-43217	Docker SAB の手動インストールが失敗して次のメッセージが表示されました: ISDEV: 致命的なエラー -7159: 製品ライセンスの期限が切れているか、まだ初期化されていません。この問題は解決されました。

システム要件

このセクションでは、InstallShield Express Edition で作成されたインストールを実行するターゲット システム (ランタイム環境) の要件 、ならびに InstallShield Express Edition を実行するために必要なシステム (オーサリング環境) の要件が説明されています。

- InstallShield Express Edition を実行するシステム
- ターゲット システムの要件

InstallShield Express Edition を実行するシステム

InstallShield Express Edition は、これらのオペレーティング システムの最も新しいパッチおよびサービス パックが適用されている最新版で実行します。

項目	説明
プロセッサ	Pentium III クラスの PC (500 MHz 以上を推奨)
RAM	1 ギガバイト の RAM (2 ギガバイト 推奨)
ハードディスク	1 ギガバイト 空き領域
ディスプレイ	1024 x 768 (XGA) 以上の解像度
オペレーティング システム	・ Windows Server 2008 R2 ・ Windows Server 2012 ・ Windows 8.1 ・ Windows Server 2012 R2 ・ Windows 10 ・ Windows Server 2016 ・ Windows Server 2019 ・ Windows 11 ・ Windows Server 2022
権限	システムの管理者権限
マウス	Microsoft IntelliMouse、またはその他の互換性があるポインティング デバイス

項目	説明
InstallShield と Visual Studio との統合 (オプション)	Microsoft Visual Studio の以下のバージョンを InstallShield Premier または InstallShield (以前は InstallShield Professional) に統合することができます: • Visual Studio 2012 • Visual Studio 2013 • Visual Studio 2015 • Visual Studio 2017 • Visual Studio 2019 • Visual Studio 2022 Visual Studio のこれらのバージョンの以下のエディション、InstallShield Premier または InstallShield に統合することができます: • Professional • Premium • Ultimate • Enterprise

ターゲット システムの要件

ターゲット システムは、次のオペレーティング システムの最小要件を満たさなくてはなりません:

- Windows 7
- Windows Server 2008 R2
- Windows 8
- Windows Server 2012
- Windows 8.1
- Windows Server 2012 R2
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

ターゲット システムで、SSE2 インストラクション セットがサポートされていることが必須です。

既知の問題

InstallShield 2023 Express Edition の既知の問題はありません。

法的情報

著作権情報

Copyright © 2023 Flexera Software

この出版物には、Flexera Software およびそのライセンサーによって所有されている機密情報、創造的な製作物が含まれています。本出版物の一部または全部を、Flexera Software からの事前の書面による明示的許可なしに、使用、複製、出版、配布、表示、改変または転載することはいかなる形態または手段を問わず厳重に禁止いたします。Flexera Software によって書面で明示されている場合を除き、この出版物の所有は、禁反言、黙示などによっても、Flexera Software が所有するいかなる知的財産権の下、ライセンスまたは権利を一切付与するものではありません。

本テクノロジおよびそれに関する情報のすべての複製は Flexera Software より許可されている場合に限り、著作権および所有権に関する通知を完全な形で表示しなければなりません。

知的財産

Flexera Software が所有する商標および特許の一覧は、https://www.revenera.com/legal/intellectual-property.html を参照してください。フレクセラ・ソフトウェア製品、製品ドキュメント、およびマーケティング資料で言及されているその他すべてのブランドおよび製品名は、各社の商標または登録商標です。

(米国内向け) 制限付権利に関する表示

本ソフトウェアは商業用コンピュータ ソフトウェアです。本ソフトウェアのユーザーまたはライセンス許可対象者が米国政府の代理、部署、その他の関連機関の場合、ソフトウェアまたは技術データおよびマニュアルを含むすべての関連文書の使用、複写、複製、開示、変更、公開、または譲渡に関して、ライセンス契約または本契約の条項ならびに民生機関については連邦調達規則第 12.212 条または軍事機関については国防連邦調達規則補遺第 227.7202 条による制限が適用されます。本ソフトウェアは完全に自費で開発されたものです。その他一切の使用は禁止されています。